

2012年度JCAS次世代ワークショップ・プログラム(企画責任者:藤井真一)

現代の紛争をめぐる地域間比較研究に向けて —アフリカとオセアニアの事例から考える

日時:2012年12月9日(日)13:00-18:30

会場:国立民族学博物館2階第5セミナー室

参加者:16名

内容:

紛争をめぐる従来の議論は、(1)国家を主要なアクターとみなす「上からの」マクロなアプローチと、(2)地域に立脚し、地域に根差した「下からの」ミクロなアプローチに大別できる。両者の議論を交えることには意義があるものの、こうした議論の突き合わせ方は平行状態に陥り、ある種の行き詰まり(対話不可能性)を示しているのではないか。紛争についての厚みある理解への道筋を探るにあたって、地域間で事例を比較検討することは有効であろう。

1990年代後半からオセアニア諸国でみられる政治的混乱が、アフリカ諸国でみられる国家の政治的安定性の揺らぎと類似していることを指摘したオセアニアの「アフリカ化(Africanization)」という議論がある。この議論に触発され、現代の紛争というトピックをめぐるアフリカとオセアニアの両地域におけるマクロ/ミクロ・レベル双方からのアプローチを交錯させることを試みた。地域を横断する形で紛争に関する事例を持ち寄って討論することを通じて、現代の紛争をめぐる地域間比較研究へ向けての土台となりうる論点を模索・検討することが本企画の狙いであった。

総合討論では、政治的混乱に対して国家が果たす役割の強弱や紛争を契機とした人の移動の質的な側面の相違、開発に伴って顕在化する土地権や漁業権といった資源対立の共通性について議論が交わされた。また、陸続きのアフリカ諸地域の事例と海によって隔てられる島嶼国が多いオセアニア諸地域の事例を突き合わせることで、現代の紛争にみられる共通性と地域特殊性が浮き彫りになった。本企画で提示されたこれらの論点は、現代の紛争の地域間比較のみならず、各地域における紛争を深く厚みある形で理解するにあたって有効かつ重要であろう。

プログラム:

藤井真一(大阪大学)

「趣旨説明—何が目指されるのか」

第1セッション:オセアニアの紛争と政治的混乱

丹羽典生(国立民族学博物館)

「アフリカ化論再考—オセアニアから紛争を考える比較の一視点として」

黒崎岳大(国際機関太平洋諸島センター)

「マーシャル諸島共和国の政権の安定性と外交政策の展開」

比嘉夏子(京都大学)

「民主主義の言説と若者の暴動—トンガ王国の事例を中心に」

藤井真一(大阪大学)

「地域紛争への関わり方—ソロモン諸島の「民族紛争」をめぐる」

第2セッション:アフリカの紛争と政治的混乱

佐川徹(京都大学)

「21世紀のアフリカ分割?—土地強奪が東アフリカ牧畜社会に与える影響」

橋本栄莉(一橋大学・日本学術振興会)

「独立後南スーダンにおける民族集団間紛争の動態」

村尾るみこ(東京外国語大学)

「自主的定着難民の食料生産—アフリカ南部アンゴラ移住民の50年から」

岡野英之(日本学術振興会・大阪大学)

「政治的混乱のアフリカさ

—サブ・サハラ・アフリカに対してあてがわれる政治的混乱に関する説明」

総合討論

